

奥村式増打ち壁耐震補強工法

ポリマーセメントモルタル吹付けで生コン打設が不要

お客様のメリット

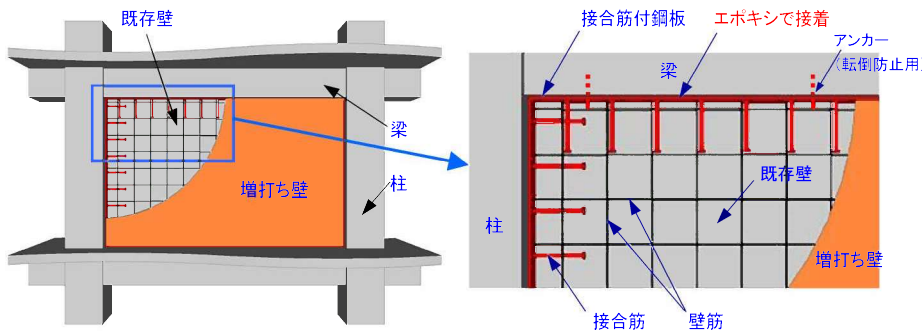
- 低振動・低騒音で建物を使いながら耐震補強できます
- 吹付工法により狭い場所でも施工できます
- 工期を短縮できます
- 増打ち壁の厚さを薄くできます

耐震補強には、元々壁のないところに耐震壁を新設する方法がありますが、動線や採光等を確保するために新設できない場合は、既存の耐震壁の壁厚を増す「増打ち壁」を採用する方法があります。増打ち壁は、一般的にコンクリートにより既存耐震壁を増厚しますが、コンクリート打設に伴う騒音や、打設現場におけるコンクリートポンプ車や配管等のための広い施工スペースの確保、型枠の設置による工事期間の長期化が問題となっていました。

本工法は、高強度で付着性に優れたポリマーセメントモルタルを吹付けて壁を増打ちするため、コンクリートを打設する通常の工法より壁厚を薄くできるとともに、騒音や振動を伴う既存壁の目荒らし作業をなくすことができます。また、コンクリート打設の工法に比べ狭い作業スペースでも施工可能で、型枠も不要なため工期を短縮できます。

さらに、増打ち壁と既存躯体の接合は、接合鉄筋付鋼板をエポキシ樹脂で接着することにより、あと施工アンカーの使用を最小限にして騒音や振動の発生を低減しています。

※ 本工法は、財団法人 日本建築総合試験所の建築技術性能証明「GBRC 性能証明 第 15-09 号」を取得しています。



工法の概要



モルタル吹付け状況